



## 第 1225 回例会報告

平成 23 年 5 月 29 日(日) 雨

### 会長挨拶

会長 長崎政直

#### 恥という日本の美德

29日予定されたゴミゼロ運動和田峠線の清掃は雨天のため、主催者により中止決定がなされ、取り止めとなりました。生憎の雨の中でもお集まりいただいた会員の皆さん、ご苦労様でした。

毎年、思うのですが、ゴミを放り出さなければ拾う必要も無いのに、どうして出来ないんだろう。昔、故人となられたロータリアン今井良寛さんが、参加された折に、「日本人の道徳は地に落ちた」と嘆かれたことを思い出します。

ゴミを投げ捨てる人々の習性として、始末がわるいことに、見えないところに投げ捨てます。思えばこれは、悪いことだと解っていてやっているのだろう。但し、解っているのは、人に見られたら恥ずかしい、非難される・まずいという程度のことなのでしょう。タバコを止められないのも一緒と御子柴幹事が言います。なるほど私も同じ・・と恥じ入るばかりです。

でも、もっとひどい人達があります。内閣不信任案をめぐる政治のいきさつは、そのレベルを超えています。

2011年6月6日の[週間ダイヤモンドon line]に 原英次郎氏 [ジャーナリスト/ダイヤモンド・オンライン客員論説委員] は、<この国の政治はなぜか劣化したのか―被災地無視の菅内閣不信任騒動で極まった「選良」たちの厚顔無恥と議員内閣制の制度疲労>という論説の中で・・菅内閣に対する不信任案を巡る三文芝居・・大義も何もない菅降ろしが目的・・国家的な危機に際して、政争にうつつを抜かず国会は本当に必要なのか。民主主義にとって由々しきことだ・・開いた口がふさがらないとは、まさにこのことだ・・被災者にはやるせなく、世界に向かっては痛く恥ずかしい・・最も、当のご本人たちには「恥」という日本の美德は、とっく昔にお忘れのようだ。

リーダーの資格なし・・政治家に求められる最低限の資質を、結果責任をとる覚悟、自らを客観的に分析する冷静な目、潔い出处進退である・・菅総理・・小沢一

郎元代表・・鳩山由紀夫前首相・・民主党の衆参150人及ぶ1回生(新人)議員たち・・この議員たちこそ、いま国民(市民)が何を政治に望み、どう評価しているかを、市民の常識を持って感じ取り、それを表明できたはず・・自民党を中心とする野党・・菅首相が退陣すれば、なぜ局面が大きく開けるのか、その具体的な展望を示すことができなかった・・特に自民党は、これまで原発推進してきたことに対する真摯な総括すらできなかった・・

こう見て考えると、政策の優先課題もそっちのけで、低次元の権力争いが繰り返すいまの国会議員に国を運営する資格はないと、国民は三行半を突き付けることが必要なかもしれない・・

国政が復興を邪魔しないための最良の方法は?・・危機対応では、結果責任を取る覚悟のうえで、超法規的措置をとるか、スピード感を持って法律を成立させて、官僚群を動かすことができるのは、その権限を持つ政治家なのである・・だから、今回の震災対応にみられるように、現在の議員内閣制がすでに制度疲労を起しているなら、この国を治める仕組みを改革する必要がある・・方法としては、大統領型に近い首相公選制、あるいは各党の代表を首相候補として選挙を戦う(与党首が変わる場合は選挙を行う)といった仕組みが考えられる。この国を治める仕組みの改革が、中長期的な課題である。

短期的には、日本の意志決定には時間がかかることと、政治の不毛を考えれば、国政には多くを期待しないことだ。もちろん、どのような制度をつくろうが、「この人が言うのであれば」「この人のためならば」と人を動かす政治家

<p>■ ニコニコ BOX</p>	<p>■ 出席報告</p> <table border="1"> <tr><td>会員数</td><td>35名</td></tr> <tr><td>出席対象</td><td>35名</td></tr> <tr><td>出席者数</td><td>16名</td></tr> <tr><td>出席率</td><td>45.7%</td></tr> <tr><td>前回修正</td><td>80.0%</td></tr> </table>	会員数	35名	出席対象	35名	出席者数	16名	出席率	45.7%	前回修正	80.0%
会員数	35名										
出席対象	35名										
出席者数	16名										
出席率	45.7%										
前回修正	80.0%										
<p>■ 今週のこぼ</p>	<p>■ 次回のプログラム</p> <p>6月16日</p> <p>第26期事業報告</p>										



個人の“魅力”が、最も重要であることは否定しない・・・いまの政界のだれに期待しろと言うのか。せめて国会は、2次補正、3次補正予算を早期に成立させて、一刻も早く使途限定のない財源を地方自治体に渡すこと、それが復興をじゃましない最良の方法なのかもしれない・・・あとは、地方自治体と住民が、自らの未来を自らで決めていくしかあるまい。それが悲劇を乗り越えて、滑稽とさえ言える我が国の政治の現実である。

要旨と思われるところを抜書きしましたが、そうだな、なるほどと共感するところが多い。とどのつまり、国家的な危機に対して、どうしたらよいのか考えが及ばないので、他者の責任に摩り替えて、拳を上げた。上げた拳の納まりどころが見つからないので、菅総理大臣を辞めさせ、し切り直そうというあたりでしょうか。蒲地さんが言ったように「私たちの民主主義が試される時」なのだと思います。

## ◇幹事報告◇

5月29日例会は台風の影響により中止となりました。

下諏訪町広報放送にて連絡が行なわれたため混乱なく対処できました。

クラブ会員は下諏訪中学校先生と共に「うらかめや」にて暖かい味噌汁とおにぎりによる「早朝懇談食事会」の後 解散致しました。準備と対応に奮闘された社会奉仕委員会の皆様、ありがとうございました。

---

## 震災所感

蒲池整志

東日本大震災発生後約3ヶ月が経過しようとしています。これまでの新聞や、TVの報道を通して、私の感じた事等を述べてみたいと思います。

1. 「頑張れ！！」と被災者に言う事は気をつけた方がよい。(人によってはストレスを感じるそうです)

頑張るのは、被災していない我々なのだ！！

2. 普段の生活にもどりながらも震災を忘れないことが大切である。

自分に出来る事を無理なく継続的にやろう！！

3. 東北のある住職のインタビュー(TV)

「これで日本人が変わらなければ被災者が浮かばれない」

4. この震災を機に真の民主主義とは何か？を考える機会にしよう。

5. 「不運であっても不幸になってはいけない。人間にはそういう力がある」

(ある女性作家の言葉)